

SAMPLE

特集レポート No. 019

製紙業のポテンシャルを活かした
新たな事業展開の可能性

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 国内労働人口の減少や少子高齢化に加え、情報通信技術の発達を背景とするペーパーレス化の進行により製紙市場は縮小している。また、市場の縮小にともない製紙各社の収益性も低下しており、今後もこのトレンドが続くと見られる中、各社は新たな収益源の確保を模索している
- そうした中、セルロースナノファイバーは、軽くて硬いといった特徴から注目が高まっている植物由来の新素材であり、各社は製紙事業に続く新たな収益の柱の候補として、セルロースナノファイバーの事業化に向けた研究開発に取り組んでいる
- 本レポートでは、セルロースナノファイバーの概要及びその実用化に向けた取り組みを紹介することで、製紙業界の新事業としての展開可能性を探る

本資料の流れ



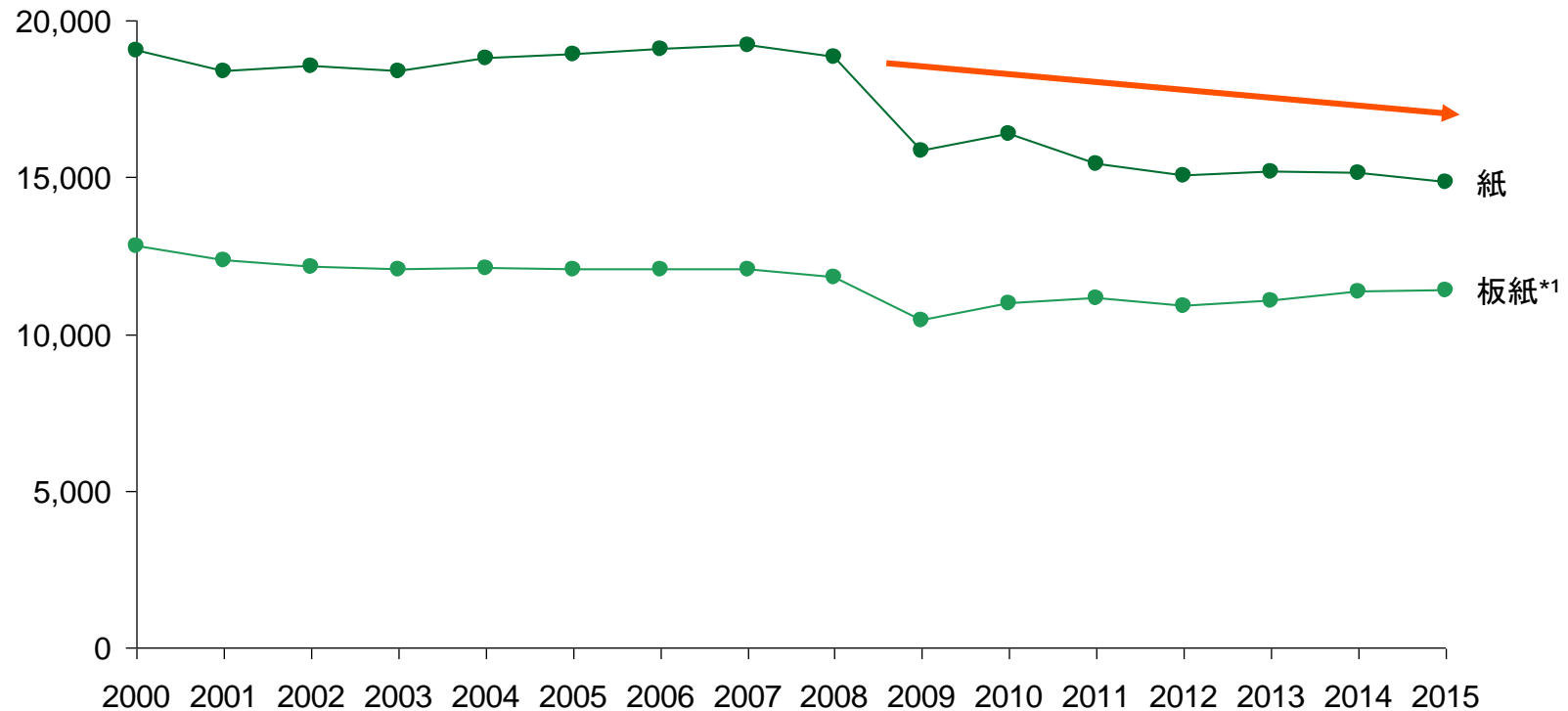
- I. 製紙業界の概要
- II. セルロースナノファイバーについて
- III. 各社の取り組み
 1. 王子ホールディングス
 2. 日本製紙
 3. その他の企業
- IV. 今後の可能性

製紙市場の縮小

- 板紙の生産量は横ばいで推移しているが、紙の生産量は近年減少を続けている
 - 労働人口減少、少子高齢化、情報通信技術の発達によるペーパーレス化の進行などが主な要因
 - 板紙はインターネット通販の成長などにもなう段ボール需要拡大により底堅い

紙・板紙の生産量推移

(単位: 千トン)



注: *1. 段ボール原紙、紙器用板紙、雑板紙などからなる

出所: 経済産業省「紙・パルプ統計」

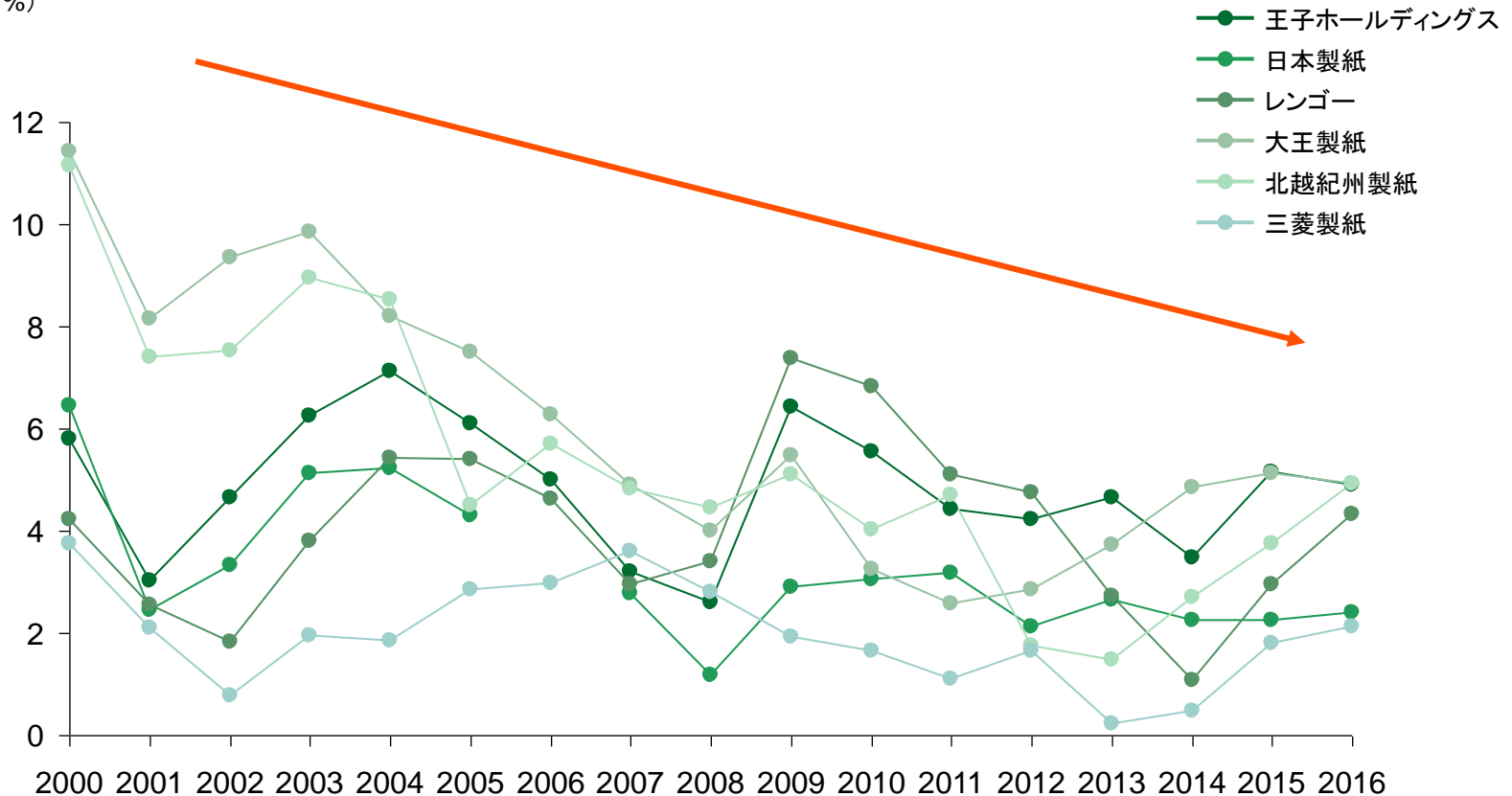
製紙業界の収益性の低下

■ 大手各社の営業利益率は総じて減少している

– 生産量の減少や原料価格高騰に加え、消費地域依存型の大規模設備による収益圧迫などが要因

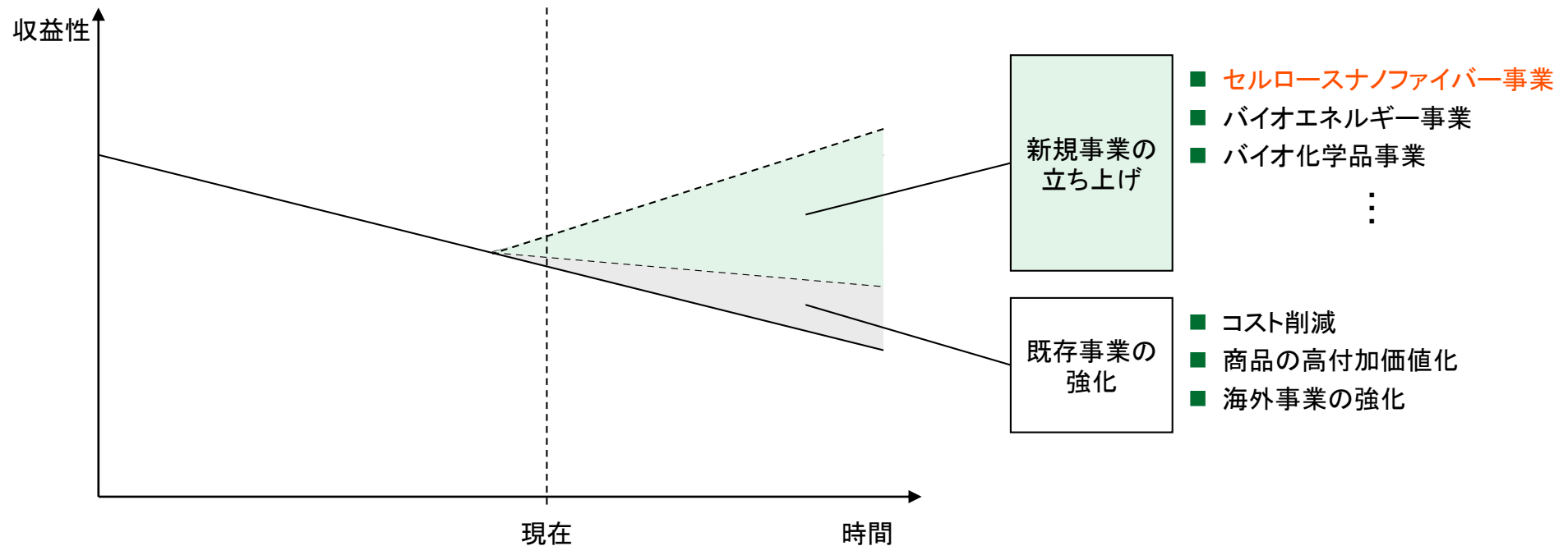
大手各社の営業利益率推移

(単位: %)



製紙技術を活かした新たな収益源の確保の必要性

- コスト削減や海外事業の強化などによる製紙事業の収益体質の改善だけでなく、新規事業による新たな収益源の確保が模索されている
 - 中でも、製紙技術を応用したセルロースナノファイバー事業が有力候補の一つとなっている



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

